

2024年8月3日（土）

老球の細道818号

### ラストセカンドプレイ

会津バスケットボール協会 室井 冨 仁

先日、義父の1周忌のために相馬に行ってきた。妻の兄弟達が皆集合し、お寺でお経をあげてもらいお墓参りをした後見晴らしの良い海岸端のレストランで会食をした。その時に話題にあがったのはパリ五輪バスケットボール男子日本対フランスのオーバータイムに至る4クォーター残り16・2秒の「3P+バスケットカウントワンスロー」の場面であった。

バスケットの部外者にもかかわらず「河村選手のファールはノーファールではなかったのか?」。「ヘッドコーチチャレンジ」で誤審かどうかを確認することはできたが、すでにその権利は使い果たしていた。誤審よりもデイフェンスの仕方に問題がなかったのか。

残り16・3秒、4点差で日本がリード。相手ボールのスローインで日本チームのデイフェンス。日本チームはタイムアウトを取り、次のデイフェンスとその後のオフenseについてホーバスコーチから指示があったと思う。考えられる対処は俺流で言えば下記の通り。

「4点差なので3Pを打たれてカウントワンスローだけは絶対避ける（しかし、バスケットボールの神様は絶対避けたい試練を日本チームに課してしまった）。2点、3点入れられてもOK。相手にシュートを決められずリバウンドを取ったら、ファールされないようボールを素早く廻し強気でボールをキープする。ボールキープは当然河村選手」

実力差が均衡しているゲーム、トップチームのゲームにおいては一桁差を争う接戦が日常茶飯事である。このような時に選手もコーチも頭がパニックになって、勝敗を運に任せるしか策がないのでは永遠に接戦はものにできない。バスケットボールの真の醍醐味はこのような接戦を勝利することにある。そのためにも、試合終了前数秒から20秒位の間におけるオフense、デイフェンスの作戦（ラストセカンドプレイ）を日頃の練習から準備しておかなければならない。私が現役コーチ時代試合時に準備していたラストセカンドプレイ策は、「3点差でリードまたは負けてる場合のオフense、デイフェンス」「2点差の場合」「1点差の場合」等である。その際のオフenseにおける「ワンショットプレイ」も必要である。

前日本協会技術委員長倉石平氏の著書『タイムアウトで勝利をつかむ50のアドバイス』（ベースボールマガジン社）の中に残り24秒を切って3点以上リードしている場合の指示がある。それによると3つの様相でポイントがまとめられている。参考になるので一読を。

- \*メンタル：いずれの戦術も強気で。「ミスはするな」はNGワード。
- \*デイフェンス：チームファールが残っている時はファールで相手のオフenseを切る。しかしシュートファール、アンスポファールは絶対禁物。
- \*オフense：相手のファールゲームに対応できるよう、メンタルが強く、ボールハンドリングとフリースローの上手な選手にボールキープをさせる。

ゲームは最後の最後まで何が起こるか分からない。あきらめない、油断しない。奇跡的な運は準備した者にやってくる。そしてバスケットボールの勝敗は結局シュートで決まる。